

# 2016年度助成 エネルギーシフト部門 成果物一覧

助成先/企画名/活動内容	成果物	
<p><b>【助成先】</b> e シフト(脱原発・新しいエネルギー政策を実現する会)</p> <p><b>【企画名】</b> エネルギー政策の具体化と電力小売全面自由化の2016年、「石炭推進＝原発推進」構造に対する提言活動とアクション</p> <p><b>(活動内容)</b> 電力自由化で電力販売にも参入し、千葉県袖ヶ浦市に合計200万kWの石炭火力発電所新規設計画を持つ東京ガスをターゲットとし、「原発推進を止めるためにも、石炭火力発電の新規計画は中止を」と呼びかけるアクションを行った。約13000枚のはがきつきりフレットを勉強会やイベントで配布し、情報共有と東京ガスへの働きかけを呼びかけた。また、千葉県内で意見交換や勉強会を開催し、気候ネットワークや地元の市民団体とも連携し、千葉県での共有を進めた。このアクションは、大阪ガスに対する同様の呼びかけにもつながった。電力自由化関係の勉強会などでも共有し、理解を進めることができた。</p> <p>エネルギー政策への働きかけについては、放射性廃棄物や再処理、ダイベストメント等について情報共有・意見交換を行ったほか、2017年度に予定されているエネルギー基本計画改訂に向けて戦略会合を行った。2016年末には、「原発事故の賠償費用や廃炉費用を託送料金で回収」する経済産業省案に対し、院内集会、パブリックコメントの呼びかけを行い、世論喚起することができた。</p>	1 東京ガスアクション ちらし	<a href="http://e-shift.org/?p=3322">http://e-shift.org/?p=3322</a>
	2 託送料金問題 12月14日院内集会	<a href="http://power-shift.org/event_161214/">http://power-shift.org/event_161214/</a>
	3 託送料金問題 パブコメちらし	<a href="https://publiccomment.wordpress.com/2016/12/20/baisyohairo/">https://publiccomment.wordpress.com/2016/12/20/baisyohairo/</a>
	4 (参考) パワーシフト・キャンペーン電力会社紹介ちらし(「電力会社一覧」PDF、2017年3月時点)	<a href="http://power-shift.org/">http://power-shift.org/</a>
	5 <b>最終報告書</b>	<a href="http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2017/06/abt_2016report_eshift_01.pdf">http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2017/06/abt_2016report_eshift_01.pdf</a>
<p><b>【助成先】</b> 脱原発弁護団全国連絡会</p> <p><b>【企画名】</b> 原発訴訟のポイントを若手弁護士が解説するビデオライブラリの制作</p> <p><b>(活動内容)</b> 2011年3月の東日本大震災・福島原発事故を受けて、国内のほぼ全ての原発について、原発の運転停止や廃炉を求める裁判(いわゆる脱原発裁判)が起こされています。原発裁判は、技術面からも、訴訟手続きの面からもわかりにくいところが多いのですが、逆に、各地の脱原発裁判で共通する部分も多いため、これらの問題をわかりやすく解説するビデオプログラムを制作しました。</p> <p>2016年度、abtからの助成を受けて制作に着手し、7月から2017年1月まで、毎月1本、計7本の解説ビデオ(+原発立地で長年にわたって原発反対運動に関わってきた方のインタビュー2本)によるビデオライブラリとしてYoutubeに公開してきました。</p>	1 第1回ビデオ「大津仮処分と3.11以降の脱原発裁判」	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=jD9NFVvmKiw">https://www.youtube.com/watch?v=jD9NFVvmKiw</a>
	2 第2回ビデオ「原発訴訟の流れを変えた福井地裁判決」	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=1ep4esy5ew">https://www.youtube.com/watch?v=1ep4esy5ew</a>
	3 2回ビデオ番外編 中島哲演さんインタビュー	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=qcBiO-W_why">https://www.youtube.com/watch?v=qcBiO-W_why</a>
	4 第3回ビデオ「川内原発の再稼働を認めてしまった司法の責任」	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=q7qMX_cQsB0">https://www.youtube.com/watch?v=q7qMX_cQsB0</a>
	5 4回ビデオ「伊方原発を裁判で止める。松山・広島・大分からのあらたな仮処分」	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=XZwuNaVucFw">https://www.youtube.com/watch?v=XZwuNaVucFw</a>
	6 第5回ビデオ「大間(フルMOX)原発の建設を裁判で止める」	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=cNlnUSZAdFg">https://www.youtube.com/watch?v=cNlnUSZAdFg</a>
	7 第6回ビデオ「柏崎刈羽原発訴訟：東京電力に原発を運転する資格はあるのか」	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=ryEXBzTqArY&amp;t=447s">https://www.youtube.com/watch?v=ryEXBzTqArY&amp;t=447s</a>

	8 第6回ビデオ番外編 武本和幸さんインタビュー 9 第7回ビデオ「2017年の脱原発裁判を展望する」 10 脱原発弁護団全国連絡会の Youtube 11 最終報告書	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=tFs7wzB2MyU&amp;t=3s">https://www.youtube.com/watch?v=tFs7wzB2MyU&amp;t=3s</a> <a href="https://www.youtube.com/watch?v=IOSfA-deGk">https://www.youtube.com/watch?v=IOSfA-deGk</a> <a href="https://www.youtube.com/channel/UCUt-WR-fx4KjBzMe7LDbf1g">https://www.youtube.com/channel/UCUt-WR-fx4KjBzMe7LDbf1g</a> <a href="http://www.actbeyontrust.org/wp-content/uploads/2017/06/abt_2016report_bengodan_01.pdf">http://www.actbeyontrust.org/wp-content/uploads/2017/06/abt_2016report_bengodan_01.pdf</a>
<p><b>【助成先】</b> 避難計画を案ずる関西連絡会</p> <p><b>【企画名】</b> 若狭の原発の避難計画徹底検証</p> <p><b>（活動内容）</b> 40年越え老朽原発の寿命延長に反対する活動と、安定ヨウ素剤の事前配布を求める活動が中心となりました。</p> <p>老朽原発の寿命延長については、カラーリーフの作成、学習会、老朽原発廃炉を求める署名活動にも取り組み、11月13日には署名集約と各地の活動を交流する「琵琶湖を守れ」集会を開催。11月15日には、26,151筆の署名を滋賀県に提出し、「琵琶湖をあずかる県としては、老朽原発の再稼働には反対」との回答を得ました。</p> <p>安定ヨウ素剤の事前配布を求める活動は、50km圏内で独自に事前配布に取り組まれている兵庫県篠山市を4月に訪問し、福島原発事故の深刻さと正面から向き合った活動に接することができました。訪問記は、「安定ヨウ素剤事前配布の篠山市視察報告集」として発行しました。</p> <p>30km圏内全市（約15万人）で事前配布を開始した茨城県ひたちなか市を訪問し、福島原発事故の教訓から5kmで線引きすることはできないとして全市で事前配布を実施している取り組みを知ることになりました。「安定ヨウ素剤の事前配布を求める院内集会＆政府交渉」を開催し、交渉では、3才未満児用のゼリー剤について、ひたちなか市の5km圏内は交付金分を使用でき、30km圏内も協議することを確認しました。また、これまで独自購入さえできなかった篠山市でもゼリー剤の購入が可能だということを確認し、一歩前進しています。</p> <p>また、福井県・京都府の合同広域避難訓練では、安定ヨウ素剤の配布・服用方法、スクリーニングの状況等について監視行動を行いました。監視行動の報告集を発行し、福井・関西の市民や議員、自治体にも配布し、防災訓練が実施される他府県にも広がりました。</p>	1 パンフレット「安定ヨウ素剤事前配布の篠山市視察報告集」目次 2 カラーリーフレット「40年超えの老朽原発はとりわけ危険 高浜1・2号、美浜3号 廃炉署名にご協力を！」5,000部発行 完売（9月末時点） 3 緊急署名を規制庁に提出（2016/06/16）熊本地震と島崎邦彦氏の警告を踏まえ、原発の停止・地震動見直しを求める緊急要請（賛同団体：70 賛同個人：742人） 4 抗議声明发出 高浜原発1・2号機の運転期間延長認可に抗議（福井・関西・中部・首都圏の19団体と共に：2016/06/20） 5 署名第一次提出と院内集会・政府交渉 老朽原発（高浜1・2号、美浜3号）を廃炉に！（2016/06/29）第一次署名集約9,561筆 院内集会・政府交渉参加：約70名 6 関西広域連合を構成する各府県知事へ老朽原発廃炉表明を求める要望書发出（2016/07/04） 7 共同声明「入倉・三宅式の過小評価を熊本地震が証明」を发出（2016/07/20） 8 緊急要請・院内集会「原発の地震動見直しと美浜3号審査中止を求めよう！」（2016/07/26）緊急要請書を規制庁に提出：短時間で98団体と565名の個人	<a href="http://www.ica.apc.org/mihama/pamphlet/pam_sasayama1605.pdf">http://www.ica.apc.org/mihama/pamphlet/pam_sasayama1605.pdf</a> <a href="http://www.ica.apc.org/mihama/haירו/haירו_leaf201606.pdf">http://www.ica.apc.org/mihama/haירו/haירו_leaf201606.pdf</a> <a href="http://www.ica.apc.org/mihama/saika/do/nsr_yosei160616.pdf">http://www.ica.apc.org/mihama/saika/do/nsr_yosei160616.pdf</a> <a href="http://www.ica.apc.org/mihama/haירו/statement160620.pdf">http://www.ica.apc.org/mihama/haירו/statement160620.pdf</a> <a href="http://kiseikanshi.main.jp/2016/06/25/syuukai/">http://kiseikanshi.main.jp/2016/06/25/syuukai/</a> <a href="http://www.ica.apc.org/mihama/haירו/kouiki_yobo160704.pdf">http://www.ica.apc.org/mihama/haירו/kouiki_yobo160704.pdf</a> <a href="http://www.ica.apc.org/mihama/saika/do/statement160720.pdf">http://www.ica.apc.org/mihama/saika/do/statement160720.pdf</a> <a href="http://www.ica.apc.org/mihama/saika/do/nsr_yosei160726.pdf">http://www.ica.apc.org/mihama/saika/do/nsr_yosei160726.pdf</a>

9	「脱原発は暮らしを守る要求 福島から避難 菅野さん、糸島で語る」『西日本新聞』(2016/08/10)	
10	「京都府南丹市美山町で、映画上映会と菅野みずえさんのお話し会(8月27日)」『毎日新聞/福井版』(2016/08/24日)	<a href="https://mainichi.jp/articles/20160824/ddl/k18/040/313000c">https://mainichi.jp/articles/20160824/ddl/k18/040/313000c</a>
11	「福井・京都府等の防災訓練 監視行動の報告集 福島原発事故を省みたのか？」(10月:第一刷 500部、11月:第二刷 400部)目次	<a href="http://www.ica.apc.org/mihama/pamphlet/pam_160827_mokuji.pdf">http://www.ica.apc.org/mihama/pamphlet/pam_160827_mokuji.pdf</a>
	「広域避難訓練“絵に描いた餅” 福島省みず実効性疑問 市民団体報告書／福井」『毎日新聞/福井版』(2016/11/9)	<a href="https://mainichi.jp/articles/20161109/ddl/k18/040/315000c">https://mainichi.jp/articles/20161109/ddl/k18/040/315000c</a>
	「県外避難の原子力防災訓練 汚染検査国指針沿わず」『福井新聞』(2016/09/30) 高浜 3・4号運転差止仮処分裁判の大阪高裁抗告審で、原告側準備書面での参照	<a href="http://fukunawa.com/fukui/18172.html">http://fukunawa.com/fukui/18172.html</a>
12	名古屋地裁で高浜 1・2号廃炉を求める裁判(第2回法廷)菅野みずえさん意見陳述(2016/10/26)	<a href="http://toold-40-takahama.com/wp-content/uploads/2016/10/20161026-kanno.pdf">http://toold-40-takahama.com/wp-content/uploads/2016/10/20161026-kanno.pdf</a>
13	若狭の原発から30km圏:京都府・滋賀県の保育所・学童施設等へのアンケート結果公表	<a href="http://www.ica.apc.org/mihama/bousai/h_questionnaire161027.pdf">http://www.ica.apc.org/mihama/bousai/h_questionnaire161027.pdf</a>
14	「避難生活の困難さなど訴え 福島で被災の女性、京都・舞鶴で講演」『京都新聞』(2016/11/3)	<a href="http://www.kyoto-np.co.jp/local/article/20161103000044">http://www.kyoto-np.co.jp/local/article/20161103000044</a>
15	大阪市へ申し入れ 自主避難者の住宅無償継続を求めて。避難関西も協力して参加(2017/11/09) 「福島原発 住宅無償継続求める 自主避難者ら大阪市と交渉」『毎日新聞』ほか(2016/11/10)	

16	老朽原発美浜 3 号も廃炉に！11・13 琵琶湖集会／15 日に廃炉署名(合計 26,151 筆)を滋賀県庁で提出  『美浜 3 号機廃炉主張を』府内や滋賀の反原発団体 滋賀県知事へ署名 『毎日新聞』ほか(2016/11/16)	<a href="http://www.ica.apc.org/mihama/hairo/appeal161113.pdf">http://www.ica.apc.org/mihama/hairo/appeal161113.pdf</a>
17	美浜 3 号寿命延長認可に抗議する、共同声明を发出(11 月 16 日琵琶湖集会実行委員会)	<a href="http://www.ica.apc.org/mihama/hairo/%E2%97%8Bkyodo_seimei_mihama_3_161116.pdf">http://www.ica.apc.org/mihama/hairo/%E2%97%8Bkyodo_seimei_mihama_3_161116.pdf</a>
18	舞鶴市朝来西町自治会と舞鶴のママの会が、安定ヨウ素剤事前配布を求める署名を市に提出。避難関西は、幼稚園等への配布を舞鶴市に要請(2017/02/06) 「希望者に事前配布を 舞鶴の住民団体、市に要望書」『京都新聞』ほか(2017/02/08)	<a href="http://www.ica.apc.org/mihama/bousai/maizuru_sy170208.pdf">http://www.ica.apc.org/mihama/bousai/maizuru_sy170208.pdf</a>
19	避難者の住宅支援無償継続を求めて京都市申し入れ(2017/03/06)	<a href="http://www.ica.apc.org/mihama/fukushima/kyoto_ctiy_q_yobo170306.pdf">http://www.ica.apc.org/mihama/fukushima/kyoto_ctiy_q_yobo170306.pdf</a>
20	ひたちなか市ゼリー状安定ヨウ素剤問題 交付金分を渡すように茨城県に申し入れ(2017/03/28) 「30 キロ圏ヨウ素剤配布を 東海第二市民団体、県に要望書」『東京新聞』茨城版(2017/03/29)	<a href="http://www.ica.apc.org/mihama/bousai/ibaraki_pref_yosei170328.pdf">http://www.ica.apc.org/mihama/bousai/ibaraki_pref_yosei170328.pdf</a>
21	安定ヨウ素剤の事前配布を求める院内集会 & 政府交渉(2017/03/31) 「院内集会と交渉の報告」『美浜の会 ニュース 146 号』	<a href="http://www.ica.apc.org/mihama/News/news146/news146govneg.pdf">http://www.ica.apc.org/mihama/News/news146/news146govneg.pdf</a>
	交渉での確認点(4 月 15 日版)	<a href="http://www.ica.apc.org/mihama/bousai/kakunin_w170415.pdf">http://www.ica.apc.org/mihama/bousai/kakunin_w170415.pdf</a>
22	会のロゴマーク	<a href="http://www.ica.apc.org/mihama/pamphlet/pam_kansi_160827.htm">http://www.ica.apc.org/mihama/pamphlet/pam_kansi_160827.htm</a>
23	<b>最終報告書</b>	<a href="http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2017/06/abt_2016report_kansai_01.pdf">http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2017/06/abt_2016report_kansai_01.pdf</a>

<p><b>【助成先】</b> 津田敏秀</p> <p><b>【企画名】</b> 放射線被ばくによる人体影響に関する医学的知見の集積とリスクコミュニケーション</p> <p><b>（活動内容）</b> 応募者らは、2011年3月の福島第一原子力発電所の事故の後、同年10月から福島県の2011年3月時点で18歳以下の全住民を対象にして開始された、超音波エコーを用いた甲状腺検診のデータ分析をおこない、2013年、2014年、2015年と、国際環境疫学会 ISEE においてその結果を発表してきた。</p> <p>そして2015年、その結果を国際環境疫学会 ISEE の学術雑誌 Epidemiology に投稿し約半年後に受理され、早期報告として10月に一般公開した。これらの結果は、岩波科学の月刊誌『科学』において随時発表してきたが、それ以外にも一般の人々にも分かりやすく説明し、政策転換を求める必要があったが、本来の研究実務や教育を行う上で、困難な状態であった。</p> <p>そのような中で、今年度さらに、これらの結果を分かりやすく報告して一般の方々に報告する必要性が生じそれを求められる機会が生じてきた。甲状腺がんの多発は、超音波エコーが行われている事故当時18歳以下の年齢層だけでなく、それ以上の年齢層においても年々増加してきていることが、他のデータソースからも明らかになってきているのに、私どもの論文にも明記した桁違いの20倍から50倍の甲状腺がんの大きな多発がいまだに社会に共通した認識にはなっておらず、従って、何らの対策も講じられていない。</p> <p>福島県で行われている超音波エコーを用いた甲状腺スクリーニングは、2014年度までの先行検査と呼ばれる1巡目検査が終わり2015年度から2016年度の本格検査と呼ばれる2巡目検査の結果が順次行われているが、そこでも発表途中とはいえすでに15倍から40倍の桁違いの多発が示されている。この多発に関しては、すでに1巡目が終わっているのに、スクリーニング効果とか過剰診断では全く説明できない。</p> <p>また、これらの福島県における桁違いの甲状腺がんの大きな多発が社会に受け入れられない背景になっている「100mSv未達の被曝では被曝によるがんは出ないとしたとしても認識できない」（いわゆる100mSv閾値論）の学術的誤りに関して日本語での解説も行う必要が生じた。また、福島県ならびにその周辺県でのデータ解析を進めるために、福島県とその周辺県におけるデータ収集を行った。</p>	1 津田敏秀「福島県でのリスクコミュニケーションと健康対策の欠如—医学的根拠に基づいた放射線の人体影響とは」『学術の動向』(No.22, pp19-27)	
	2 津田敏秀「甲状腺がんデータの分析結果—2016年6月6日第23回福島県『県民健康調査』検討委員会発表分より」『科学』(Vol.86, No.8, pp797-805)	<a href="https://www.iwanami.co.jp/kagaku/">https://www.iwanami.co.jp/kagaku/</a>
	3 津田敏秀「甲状腺がんデータの分析結果—2016年9月14日第24回福島県『県民健康調査』検討委員会発表分より」『科学』(Vol. 86, No.11, pp102-1115)	<a href="https://www.iwanami.co.jp/kagaku/">https://www.iwanami.co.jp/kagaku/</a>
	4 津田敏秀「甲状腺がんデータの分析結果—2016年12月27日第25回福島県『県民健康調査』検討委員会発表分より」『科学』(Vol.87, No.2, pp124-132)	<a href="https://www.iwanami.co.jp/kagaku/">https://www.iwanami.co.jp/kagaku/</a>
	5 津田敏秀「甲状腺がんデータの分析結果—2016年2月20日第26回福島県福島県『県民健康調査』検討委員会発表分より」『科学』(Vol.87, No.4, pp339-348)	<a href="https://www.iwanami.co.jp/kagaku/">https://www.iwanami.co.jp/kagaku/</a>
	6 「福島の甲状腺がん多発、行政や医療関係者の『原発事故と関係ない』の主張はデータを無視したデータ」『LITERA』(2017/03/11)	
	11 <b>最終報告書</b>	<a href="http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2017/06/abt_2016report_okayama_01.pdf">http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2017/06/abt_2016report_okayama_01.pdf</a>

<p><b>【助成先】</b> NPO 沖縄・球美の里</p> <p><b>【企画名】</b> 沖縄・球美の里第 60 次母子保養</p> <p>(活動内容) 沖縄・球美の里は、2012 年 7 月の開所以来、2017 年 4 月末現在で、3,149 名(子ども 2,508 名、保護者 641 名)の保養者を受け入れてきました。</p> <p>第 60 回目となる保養は、未就学児を中心に、子ども 19 名、付き添いの保護者 11 名、計 30 名が参加しました。6 月 29日から 7 月 7 日の 8 泊 9 日の予定でしたが、台風のため予定を 1 日早め、7 月 6 日に終了しました。</p> <p>沖縄は梅雨明けで天気が比較的良好、体調を崩す子どももなく、子どもたちは外でたくさん遊んで過ごしました。豊かな自然の中で、放射能を気にすることなく、海に入ったり、裸足になり芝生の上や岩山で遊んだりすることができました。プログラムの中でも海に行きましたが、その他フリーデー(自由行動の日)に海へ行った参加者も多くいました。球美の里の食事とおやつは、島の食材を中心に島のお母さんたちの手作りです。子どもたちやお母さんたちにおいしいと評判です。家では食べなかった野菜をよく食べるようになったという声もよく聞きます。</p> <p>実施したプログラムの中で人気のひとつは、地元の三線グループ「なんくるさんしん」の球美の里でのライブです。保養のスタート時から欠かすことなく行ってきています。『球美ぬりにめんそうれ』(球美の里によこそ)は、福島の子どものために作られたオリジナル曲です。</p> <p>沖縄・球美の里における甲状腺検診は、2014 年度アクト・ビヨンド・トラストの助成を受け、35 回目の保養から続けています。 ※2014 年度報告書 <a href="http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_kumi_01.pdf">http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_kumi_01.pdf</a> 第 60 次は保養 4 日目の 7 月 2 日に実施しました。島根大学の野宗先生が検診を担当。17 名の子どもと保護者 9 名が検診を受けました。検診結果は画像を含めて保護者に渡しています。</p> <p>毎日の保養の様子を球美の里のブログで発信しました。 ※ブログ <a href="http://kuminosato.blog.fc2.com/?q=%E7%AC%AC60%E6%AC%A1%E4%BF%9D%E9%A4%8A">http://kuminosato.blog.fc2.com/?q=%E7%AC%AC60%E6%AC%A1%E4%BF%9D%E9%A4%8A</a></p>	1	ブログ「球美の里保養日記」	<a href="http://kuminosato.blog.fc2.com/">http://kuminosato.blog.fc2.com/</a>
	2	ホームページ「沖縄・球美の里」	<a href="https://www.kuminosato.com/">https://www.kuminosato.com/</a>
	3	球美の里フェイスブック	<a href="https://www.facebook.com/kuminosato.net/">https://www.facebook.com/kuminosato.net/</a>
	4	ニュースレター「球美の里だより」	<a href="https://www.kuminosato.com/fm-hello">https://www.kuminosato.com/fm-hello</a>
	5	パンフレット	<a href="https://www.kuminosato.com/blank-40">https://www.kuminosato.com/blank-40</a>
	6	『FM くめじま』で番組「Hello!球美の里」を放送(毎月第 1・第 3 金曜日 12:30～13:00)	<a href="https://www.kuminosato.com/20170118">https://www.kuminosato.com/20170118</a>
	7	「連載 東日本大震災と子ども」『児童養護』Vol.47, No.1(2016/06/30)	
	8	家庭科放射能研究会編『原発と放射線をとことん考える！いのちと暮らしを守る 15 の授業レシピ』合同出版(2016.8.15)	
	9	「しみん発」(4 周年イベント「球美ぬりにめんそうれ」展告知)『東京新聞』(2016/10/27)	
	10	「福島の親子ら野菜収穫体験 沖縄・久米島、海洋深層水栽培研究所で」『沖縄タイムス』(2016/11/27)	<a href="https://www.kuminosato.com/withue">https://www.kuminosato.com/withue</a>
	11	「こんなこと、やってます」(球美の里を紹介)『週刊金曜日』(2017/01/20)	<a href="http://www.kinyobi.co.jp/event/20170120_002211.php">http://www.kinyobi.co.jp/event/20170120_002211.php</a>
	12	「楽天・茂木らが福島の子どもたちと交流『頑張ればもっと笑顔になつてもらえる』」『サンケイスポーツ』(2017/02/10)	<a href="https://www.kuminosato.com/20170211-1">https://www.kuminosato.com/20170211-1</a>
	13	「<楽天>福島の子とキャンプ地で交流」『河北新報』(2017/02/11)	<a href="https://www.kuminosato.com/fm-hello-1">https://www.kuminosato.com/fm-hello-1</a>

	14 「総特集 もっと、福島とつながる」『のんびる』2017年3月号	<a href="https://www.kuminosato.com/201703">https://www.kuminosato.com/201703</a>
	15 「チェルノブイリで成果のあった保養を福島の子どもたちにも」『わいわい』2017年3月号	<a href="https://www.kuminosato.com/20170311">https://www.kuminosato.com/20170311</a>
	16 『市民活動のひろば』2017年3月号	<a href="https://www.kuminosato.com/blank-42">https://www.kuminosato.com/blank-42</a>
	17 「福島に向かい祈り 久米島 震災犠牲者悼む」『沖縄タイムス』(2017/03/12)	<a href="https://www.kuminosato.com/2017-3-12">https://www.kuminosato.com/2017-3-12</a>
	18 <b>最終報告書</b>	<a href="http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2017/06/abt_2016report_kuminosato_01.pdf">http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2017/06/abt_2016report_kuminosato_01.pdf</a>

<p><b>【助成先】</b> まつもと子ども留学基金</p> <p><b>【企画名】</b> まつもと子ども留学継続・拡充事業</p> <p><b>（活動内容）</b> 当団体は平成 26 年 4 月から、福島県の子も達を対象に、自然豊かな松本市・四賀地区で、寮生活と教育を受けさせる留学事業を行なっている。また、次年度の 4 月からは、松本市内の個人宅で男子 2 名がホームステイ留学を受け入れていただき、そのご家族と共に NPO のスタッフが支援を行ってきている。ホームステイ留学生も子ども寮の寮生と一緒に様々な行事を体験し、交流も深まってきている。松本市や教育委員会をはじめ、地域の方々の支援、長野県内、日本全国の市民からもの多くの寄付や物品の寄付によって、3 年目の事業を無事継続させることができた。海外からも支援が寄せられている。アクト・ビョンド・トラストなどの助成団体からの助成では、母屋の部屋拡張、離れのトイレやシャワー、駐車場の整備などにより寮の施設と宿泊施設の環境を整備することができ、「暮らしやすい寮」と「保養などに開かれた寮」と寮の機能が大幅に拡大した。</p> <p>施設が整備されたことにより、今年度は参加者が「日程や過ごし方も自由」という形式の「通年保養」も導入することができた。保護者のニーズにも合い、好評であった。保養相談会、自主企画相談会やパンフレットの成果もあり、年間参加者は昨年 の 3 倍を超え、合計家族 20 家族 68 人であった。スタッフの一人がコーディネーターとなり、日程調整や遊び場所の紹介や同行支援などを行った。人数が多い時期には、バーベキューなどに寮生も参加し、楽しく交流をした。その中から、2 家族親子 4 名が、平成 29 年 4 月から、寮近くの公営住宅に移住し、寮生やスタッフと交流しながら生活することになった。相談会での相談、保養&amp;見学会の体験を経て、住宅支援の打切りに伴い、NPO と松本市への信頼を頼りに自主避難先から移住を決意したのである。</p> <p>寮生たちの生活では、2 名の受験生が進学先を福島か長野かで悩み、様々な課題に直面したが、最終的に両名とも長野県内の高校に、志望通り進学することができた。丸 3 年間、松本で学んだ寮生が長野に残って進学することは、NPO の関係者ばかりでなく、毎年、卒業の餅つきをしてくれる四賀地区人たちにとっても、喜ばれることだと思う。その為、NPO は H29 年度から高校生の寮生活を支援することを決めた。</p> <p>平成 28 年 1 月より当 NPO の寮スタッフとして大活躍している方が、NHK ラジオの取材を受け、留学事業への思いを全国に発信してくれた。</p>	1	「特集 福島から松本へ あすを紡ぐ子ども留学」(上中下)『信濃毎日新聞』(2016/04/13~04/15)	
	2	「子ども留学 海外から善意」『市民タイムス』(2017/03/23)	
	3	H28 年度 8 月 保養&見学会チラシとしおり ※保養と見学会の様子はホームページで	<a href="http://www.kodomoryugaku-matsumoto.net/">http://www.kodomoryugaku-matsumoto.net/</a>
	4	H28 年度 9 月 保養&見学会チラシとしおり	
	5	NHK ラジオで「子ども留学の紹介」。スタッフの間宮さんがインタビューに応える。	
	6	ニュースレター vol. 7 発行	<a href="http://www.kodomoryugaku-matsumoto.net/?p=1855">http://www.kodomoryugaku-matsumoto.net/?p=1855</a>
	7	<b>最終報告書</b>	<a href="http://www.kodomoryugaku-matsumoto.net/?p=1855">http://www.kodomoryugaku-matsumoto.net/?p=1855</a>



<p><b>【助成先】</b>  <b>特定非営利活動法人市民科学者国際会議</b></p> <p><b>【企画名】</b>  <b>第6回市民科学者国際会議の開催</b></p> <p><b>（活動内容）</b>  福島第一原発事故による低線量被曝をめぐる当面の重要な問題として、低線量被曝の健康リスクにしきい値が存在するか否かの問題、疫学調査とその結果の解釈、それに基づく対策（公衆衛生対策、廃棄物処理、避難/移住、帰還など）の在り方があります。いずれも被災者にとって緊急かつ重大な問題ですが、短期間に結論の出る問題ではなく、事実ベースでの地道な検証を積み重ねつつ、新たな知見を具体的な放射線防護対策に結びつけて行くことが求められています。</p> <p>放射線防護の意思決定が「科学」を偏重してきた結果、少数の「専門家」にのみ決定権が集中し、被災者自身や市民の参加が排除されているのが現状です。しかし、とくに低線量被曝については科学ではわからないことが多いのが現状です。被災者に納得のいく放射線防護対策を進めるためには、「専門家による支配の構造 (expertocracy)」を変え、「科学」以外の要素も含めた幅広いアプローチが求められています。当団体は科学者・研究者と芸術家を招聘し、市民と一緒に考える「第6回市民科学者国際会議」を福島県二本松市で開催し、下記3つの課題に取り組みました。</p> <p>(1) 低線量被ばくによる人体影響：いずれの報告も、低線量被ばくの線量-健康リスクがこれまでに得られている高線量・高線量率被ばくのそれと近似しており、しきい値が存在しないことを示唆するものでした。これらは「線形しきい値なし (LNT) 仮説」を補強する新たな知見であり、現在行われている放射線防護対策の見直しの必要を示すものとなりました。</p> <p>(2) 疫学調査とその結果の解釈、それに基づく対策：現在の復興支援政策が人間の復興よりも経済の復興に重点が置かれて被災者の必要への対策が放置されている、「原子力神話」崩壊を糊塗するような教育・宣伝が公的に行われている、「構造的暴力」の下で被災者の心的外傷ストレス障害 (PTSD) が改善していないなど、現状の問題点が浮き彫りになるとともに、今後取るべき対策が提案されました。</p> <p>(3) 被災者支援の意思決定の在り方：低線量被ばくの健康リスクをめぐる普遍的かつ特化した科学的議論と、あくまで個人の感性に依拠して世界を把握し表現するアートという対極的なアプローチから、今日の被災地の現実を見る今回の試みによって、一般市民がこの会議に参加しやすくと同時に、科学者にも新たな視点を提供したと思われる。</p> <p>上述した今回の会議のまとめと提言、および LNT 仮説をめぐる宣言書が、雑誌「科学」（岩波書店）に掲載されました。  <a href="https://www.iwanami.co.jp/kagaku/Kagaku_201703_Shiminkagakusyakokusaikaigi.pdf">https://www.iwanami.co.jp/kagaku/Kagaku_201703_Shiminkagakusyakokusaikaigi.pdf</a></p> <p>科学以外の視点を具体的な放射線防護政策の意思決定に導入するまでの道のりはまだ遠いと言わざるを得ませんが、この問題に対する科学以外の視点の大切さを参加者に提示することはできたのではないかと思います。</p>	<p>1 「第6回市民科学者国際会議」の開催</p> <p>2 「第6回市民科学者国際会議」パンフレット(予稿集)</p> <p>3 「第6回市民科学者国際会議」アーカイブ映像(ページ下部にあり)</p> <p>4 「第6回市民科学者国際会議 結論」および「低線量電離放射線被ばくのリスクに関する二本松宣言」岩波書店『科学』vol.87, no.3(2017/03) (日本語)</p> <p>5 同(英語)</p> <p>6 二本松宣言・記者会見(環境省記者クラブ)</p> <p>7 同(外国人記者クラブ)</p> <p>8 <b>最終報告書</b></p>	<p><a href="http://csrj.jp/csrj2016/">http://csrj.jp/csrj2016/</a></p> <p></p> <p><a href="http://csrj.jp/">http://csrj.jp/</a></p> <p><a href="https://www.iwanami.co.jp/kagaku/Kagaku_201703_Shiminkagakusyakoku_saikaigi.pdf">https://www.iwanami.co.jp/kagaku/Kagaku_201703_Shiminkagakusyakoku_saikaigi.pdf</a></p> <p><a href="https://www.iwanami.co.jp/kagaku/eKagaku_201703_CSRP.pdf">https://www.iwanami.co.jp/kagaku/eKagaku_201703_CSRP.pdf</a></p> <p><a href="https://www.youtube.com/watch?v=kzKXOIJMAOs&amp;feature=youtu.be">https://www.youtube.com/watch?v=kzKXOIJMAOs&amp;feature=youtu.be</a></p> <p><a href="https://www.youtube.com/watch?v=4zfZuOzjQLo&amp;feature=youtu.be">https://www.youtube.com/watch?v=4zfZuOzjQLo&amp;feature=youtu.be</a></p> <p><a href="http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2017/06/abt_2016report_shimin_01.pdf">http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2017/06/abt_2016report_shimin_01.pdf</a></p>
--	---	--

<p><b>【助成先】</b> 琉球大学理学部海洋自然科学科生物系大瀧研究室</p> <p><b>(企画名)</b> 帰還区域におけるチョウの生物学的調査</p> <p><b>(活動内容)</b> 福島第一原発事故による放射能汚染の生物学的影響について、小型のチョウであるヤマトシジミを環境指標生物として用いて調査してきた。現時点では、除染作業が完了したために多くの地域が帰還可能な地域とされている。放射線量に人為的に閾値を設定し、その閾値以下では安全であると議論されているが、その妥当性は明確ではない。また、除染袋の劣化による二次汚染の問題もある。本研究では帰還区域においてヤマトシジミの異常率および捕獲個体数をモニターすることで、帰還区域の環境の生物学的安全性を評価することを試みた。</p> <p>2016年9月に調査を行った。その時点で居住制限区域・避難指示解除準備区域となっている場所およびその周辺区域においてヤマトシジミ成虫を採集した。具体的には、富岡町、大熊町、葛尾村、飯館村、南相馬市、浪江町、楡葉町、川内村、田村市、いわき市、広野町、相馬市、霊山氏、福島市などの各地点である。</p> <p>21地点で10個体以上採集することができた。異常率は0%の地点も多かったが、5%から10%の地点も多く、最大の場所では20%となった。福島を含む東日本(北限個体群を除く)の平均が3%程度であることを考えると、今回の調査地で得られた値は高めである。また、すでに放射線環境への適応進化が起きていることが報告されているが、それでもなお異常率が高めであることは注目に値する。</p> <p>これらの地点の異常率および1分当たりの捕獲個体数について、地面線量との相関は有意とはならなかった。これは現在の地面線量が環境の汚染度をもはや正しく表していないことに起因すると思われる。一方、原発からの距離との相関では、異常率および捕獲個体数においてそれぞれ有意な結果が得られた。これは、原発からの距離が当時の汚染度をより忠実に反映しているためだと思われる。つまり、原発からの距離が遠いほど異常率は低くなり、個体数は多くなる傾向にある。</p> <p>このような結果から、居住制限区域・避難指示解除準備区域では、2016年9月現在においてもヤマトシジミは放射能汚染の影響を受けていると考えられる。この影響が初期被曝によるものなのか、慢性的な残留放射能による被曝によるものなのかは明確ではないが、われわれのこれまでの研究から判断すると、両方の影響である可能性が高い。世代時間が1カ月と短いヤマトシジミにおいても影響が長引いていることを考えると、現時点でも帰還環境が多くの生物にとっては安全な環境であると結論付けるのは早計であると言える。</p>	<p>1 原発から20km圏内(田村町都路地区(2014年4月に解除)、川内村東部(2014年10月に解除)、楡葉町北田地区(2015年9月に解除)、南相馬市小高区(2016年月に解除予定))、または除染土仮置場周辺(福島中央東地区市街地、渡利地区花見山付近、白河市表郷地区・東地区)の「人が暮らしている」地域でのヤマトシジミ採集、およびその形態や生理的な特徴データの収集</p> <p>2 各地区10箇所程度の採集場所、また各採集場所では10頭以上を採集目標</p> <p>3 環境線量も同時に測定</p> <p>4 調査前に本プロジェクトの開始をホームページやマスコミを通して発信</p> <p>5 調査結果速報を研究室のウェブサイトで発信</p> <p>6 <b>最終報告書</b></p>	<p><a href="http://w3.ryukyu.ac.jp/bcphunit/kaijorisk.html">http://w3.ryukyu.ac.jp/bcphunit/kaijorisk.html</a></p> <p><a href="http://w3.ryukyu.ac.jp/bcphunit/files/abt_result_2017.pdf">http://w3.ryukyu.ac.jp/bcphunit/files/abt_result_2017.pdf</a></p> <p><a href="http://www.actbeyontrust.org/wp-content/uploads/2017/06/abt_2016report_ryukyu_01.pdf">http://www.actbeyontrust.org/wp-content/uploads/2017/06/abt_2016report_ryukyu_01.pdf</a></p>
--	--	--

**【助成先】**  
**いわき放射能市民測定室「たらちね」**

**【企画名】**  
**たらちねβ 線核種測定ラボプロジェクト 2016 年度**

**(活動内容)**

2017 年度たらちねベータラボの事業の大きな成果は、海水のストロンチウム 90 分析法の確立と、骨のストロンチウム 90 分析法の確立の 2 つである。この成果を得られたことで 2015 年から行っている福島原発沖での海洋調査のサンプリング試料のストロンチウム 90 測定が可能になった。2011 年の福島原発事故による海洋汚染の実相を知るために、この調査とデータの集積は重要なものであるため、この分析法の確立には大きな意味があると考えている。分析ができずに冷凍保存していた試料を順次測定し、測定値を出す作業を始めている。海洋調査はまだ 5 回しか行っていないが、2016 年度のいわき沖海洋調査では、原発から 30km 以上離れた海域からもストロンチウム 90 が検出され、汚染が思っている以上に拡散している印象を持った。

もう一つの目標であった高性能の放射能測定器の購入は、資金の目処が立たずに購入に至らなかった。このことは計画をいったん凍結し、今後の事業内容と資金状況を考えて再度進められる機会があれば考えていきたいと思う。この機器の購入により解決できるはずであった検出下限値をさらに低くすることと、測定の順番待ちをしている試料の処理能力を上げることについては、現場の人的努力で少しでも改善できるよう努力することを話し合った。

2016 年度は計画通り進んだことと、進まなかったことと両極端に分かれた結果になったが、困難にぶつかった時、現場のスタッフ間で話し合いを持ち解決に導くというチームワークが深まった年であったと考える。ベータ線の測定は設備や技術だけでなく、現場の協力体制が大変重要で、お互いに協力しあい研鑽し向上するということを実践できた「熟成の年」であったと感じる。

2011 年 3 月 11 日に起きた原発事故の汚染の問題は、私たちの世代だけでなく、世代を超えて検証していかなければならないものなので、今後も長く取り組んでいきたいと思う。

1	「After Fukushima disaster, Japanese mothers don lab coats to measure radiation」『Thomson Reuters Video』(2017/03/09)	<a href="http://news.trust.org/item/20170309134408-b40na/">http://news.trust.org/item/20170309134408-b40na/</a>
2	「Le madri di Fukushima misurano da sole la radioattività del cibo」『Internazionale』(2017/03/10)	<a href="https://www.internazionale.it/video/2017/03/10/fukushima-radiazioni">https://www.internazionale.it/video/2017/03/10/fukushima-radiazioni</a>
3	Mari Shibata「FEATURE-After Fukushima disaster, Japanese mothers don lab coats to measure radiation」Reuters(2017/03/09) The Asahi Shinbun(2017/3/11)	<a href="http://uk.reuters.com/article/japan-women-radiation/feature-after-fukushima-disaster-japanese-mothers-don-lab-coats-to-measure-radiation-idUKL8N1G66K0">http://uk.reuters.com/article/japan-women-radiation/feature-after-fukushima-disaster-japanese-mothers-don-lab-coats-to-measure-radiation-idUKL8N1G66K0</a>
4	「Rebellion der Mütter von Fukushima」Gesellschaft(2017/3/11)	
5	NHK 国際放送での報道	
6	天野光、木村亜衣、鈴木薫「食品と環境中トリチウムの迅速分析(2) 組織結合型トリチウム」(第 18 回「環境放射能」研究会でポスター発表)	
7	天野光、坂本英輝、根本富実子、鈴木薫「食品と環境中 Sr-90 の迅速分析(2) 2 重固相抽出法」(第 18 回「環境放射能」研究会でポスター発表)	
8	『月間リード』(毎月掲載)	<a href="http://www.iwaki-j.net/read/">http://www.iwaki-j.net/read/</a>
9	「市民測定室だより」『日々の新聞』連載	<a href="http://www.hibinoshinbun.com/files/341/341_tobira.html">http://www.hibinoshinbun.com/files/341/341_tobira.html</a>
10	市民活動のひろば	<a href="https://www.facebook.com/shiminNP/Ohiroba">https://www.facebook.com/shiminNP/Ohiroba</a>
11	海洋調査データ「たらちね海洋調査結果 第 1 回～5 回」	

	12 最終報告書	<a href="http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2017/06/abt_2016report_tarachine_01.pdf">http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2017/06/abt_2016report_tarachine_01.pdf</a>
--	----------	---

<p><b>【助成先】</b> みんなのデータサイト運営委員会</p>	<p>1 東日本 17 都県で 4,000 人の協力を得て、3,000 件の採取・測定を達成</p>	<p><a href="http://www.minnanods.net/soil/pref17_colored/map17.html">http://www.minnanods.net/soil/pref17_colored/map17.html</a></p>
<p><b>【企画名】</b> 「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト」採取測定最終年度遂行企画</p>	<p>2 2011 年原発事故放射能汚染の「過去・今・未来」が見える土壌プロジェクトマップ公開 「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト・測定結果」 「新マップシステムの解説」</p>	<p><a href="http://www.minnanods.net/soil/">http://www.minnanods.net/soil/</a> <a href="http://www.minnanods.net/soil/new-map-howto.html">http://www.minnanods.net/soil/new-map-howto.html</a></p>
<p>(活動内容) ■市民 4,000 人による東日本 17 都県 3,000 件採取測定の達成 <a href="http://www.minnanods.net/soil/pref17_colored/map17.html">http://www.minnanods.net/soil/pref17_colored/map17.html</a> 採取が手薄だった青森、秋田、山形、福島、茨城、栃木、群馬、千葉、新潟の各県において採取講習会および土壌採取キャラバンを実施、市民と測定室協同による採取が実現。課題であった空白域採取(800 件増目標)は、2016 年 3 月末の約 1,900 地点から、2017 年 4 月 7 日現在で 3,148 地点となり、約 1,250 件増の大きな成果となった。</p>	<p>3 環境濃縮ベクレルプロジェクト・12 項目の分類一覧</p>	<p><a href="http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2017/06/abt_2016report_minna_03.pdf">http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2017/06/abt_2016report_minna_03.pdf</a></p>
<p>■2011 年原発事故放射能汚染の「過去・今・未来」が見える 土壌プロジェクトマップを公開 <a href="http://www.minnanods.net/soil/">http://www.minnanods.net/soil/</a> <a href="http://www.minnanods.net/soil/new-map-howto.html">http://www.minnanods.net/soil/new-map-howto.html</a> 2011 年、2021 年、2031 年、2041 年、2111 年の 100 年後までの放射能の減衰試算を web 上で表示。以下の条件で利用者が随時選択して表示を変えられる仕組みを構築して公開した。 A)換算単位や配色の選択 ●Bq/kg マップ ●Bq/m<sup>3</sup> マップ ●Atlas マップ B)表示する時期の選択 ●2011 年 ●2017 年(最近)●2021 年 ●2031 年 ●2041 年 ●2111 年 C)表示する都県の選択 ●17 都県より →A, B, C の組み合わせで、3×6×17 種類のマップ表示システムを実装。</p>	<p>4 「土壌の汚染みんなで測る」『朝日新聞』(2016/04/17)</p> <p>5 Masakazu Honda「30 groups show radioactive soil levels to address Fukushima fears」『the Asahi Shinbun』(2016/05/06)</p>	<p><a href="http://www.asahi.com/ajw/articles/AJ201605060006.html">http://www.asahi.com/ajw/articles/AJ201605060006.html</a></p>
<p>■チェルノブイリと日本のゾーン区分比較試算表を作成 この試算表では、日本における土壌汚染がチェルノブイリと比較してどの程度なのか、また補償・避難などの基準の違いを明らかにすることができた。 ゾーン区分比較試算表を掲載した、新チラシはこちら→ <a href="http://www.minnanods.net/soil/flyer.html">http://www.minnanods.net/soil/flyer.html</a></p>	<p>6 「土壌調査 3000 件へあと一步 原発事故 17 都県で市民測定」『東京新聞』(2017/01/07)</p> <p>7 日本外国特派員協会にて配布した資料(2017/01/17) ※当日の会見の様様</p>	<p><a href="http://www.tokyo-np.co.jp/article/metropolitan/list/201701/CK2017010702000179.html">http://www.tokyo-np.co.jp/article/metropolitan/list/201701/CK2017010702000179.html</a> <a href="http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2017/06/abt_2016report_minna_04.jpg">http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2017/06/abt_2016report_minna_04.jpg</a></p>
<p>■英語サイトの更新 <a href="http://en.minnanods.net/soil/">http://en.minnanods.net/soil/</a> 英語サイトにおいて、以下の新機能を公開した(2011 年原発事故放射能汚染の「過去・今・未来」が見える 土壌プロジェクトマップの英語版を公開)。 2011 年、2021 年、2031 年、2041 年、2111 年の 100 年後までの放射能の減衰試算を web 上で表示。以下の条件で利用者が随時選択して表示を変えられる仕組みを構築して公開した。 A)換算単位や配色の選択 ●Bq/kg マップ ●Bq/m<sup>3</sup> マップ ●Atlas マップ B)表示する時期の選択 ●2011 年 ●2017 年(最近)●2021 年 ●2031 年 ●2041 年 ●2111 年 C)表示する都県の選択 ●17 都県より →A, B, C の組み合わせで、3×6×17 種類のマップ表示システムを実装。 2017 年 3 月 26 日の公開イベントについて報告記事を掲載。 →<a href="http://minnanodasite.blogspot.jp/2017/05/event-report-on-celebration-of.html">http://minnanodasite.blogspot.jp/2017/05/event-report-on-celebration-of.html</a></p>	<p>8 クラウドファンディングのお礼として送信したマップデータ(2017/01/31) ①2017年 1 月 31 日時点の Cs-134、137 合算ベクレル量換算マップ ②2011年 3 月 22 日時点の Cs-137 ベクレル量換算マップ ③2011年 3 月 22 日時点の Cs-134、137 合算ベクレル量換算マップ</p>	
	<p>9 2017 年 3 月、クラウドファンディングのお礼として送付したマップ</p> <p>10 2017 年 3 月 26 日、配布したチェルノブイリと日本のゾーン区分試算表(4 月以降、バージョンを刷新、みんなのデータサイトの新チラシに活用)</p>	<p><a href="http://www.minnanods.net/soil/flyer.html">http://www.minnanods.net/soil/flyer.html</a></p>

	11 最終報告書	<a href="http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2017/06/abt_2016report_minna_01.pdf">http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2017/06/abt_2016report_minna_01.pdf</a>
--	----------	---